

CZ  
476  
025

# 新法令

海技免狀取扱規則	船舶職員法	船舶検査法	登簿免狀取扱規則	同施行細則	造船獎勵法	同施行細則	航海獎勵法
附登錄稅法	船舶ノ修理出願方	西洋形雇人雇止規則	海上衝突豫防法	失踪船取扱規則	船稅規則	船鑑札規則	海員懲戒法

發行所  
雲根堂

038109-000-0

CZ-476-025

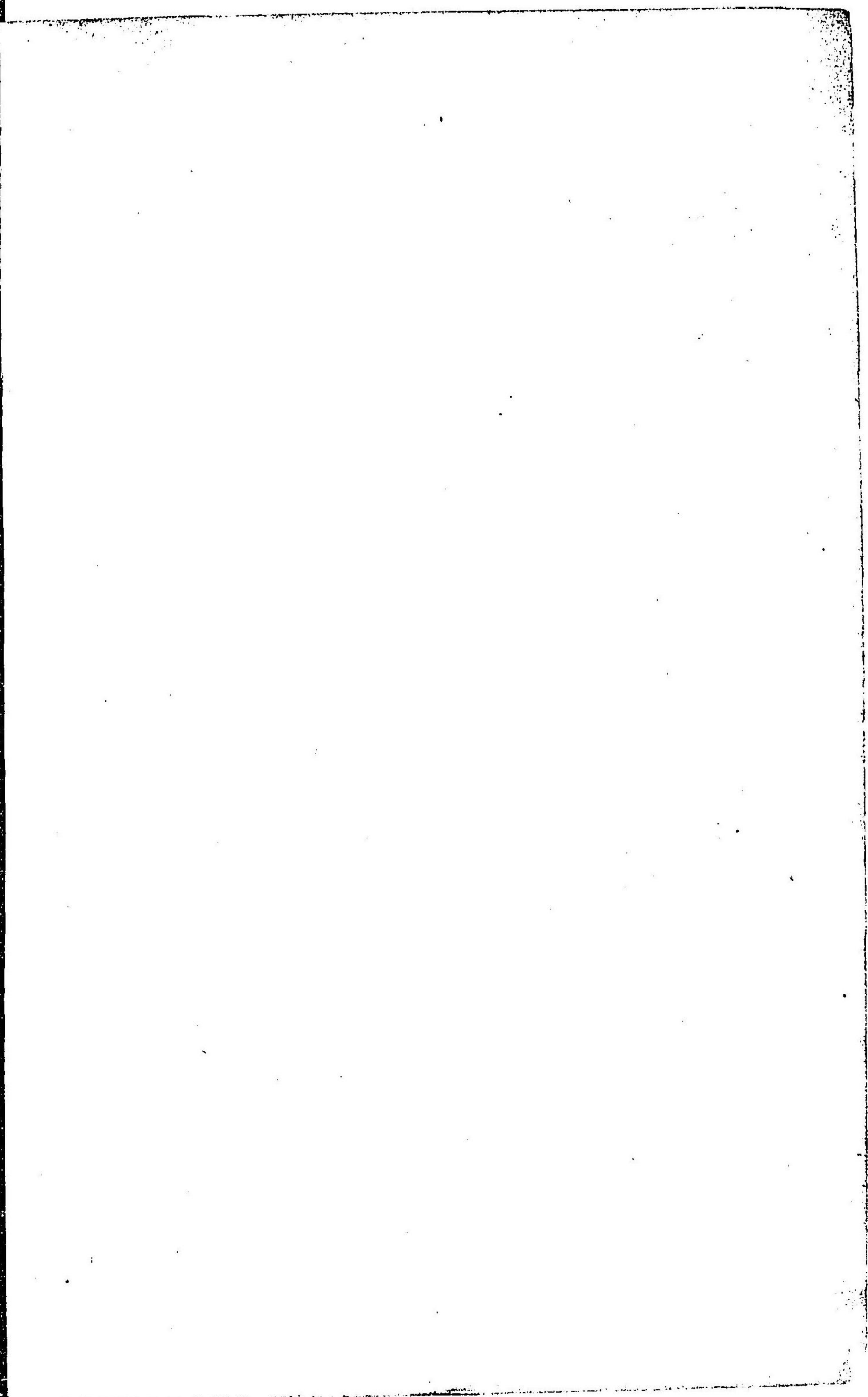
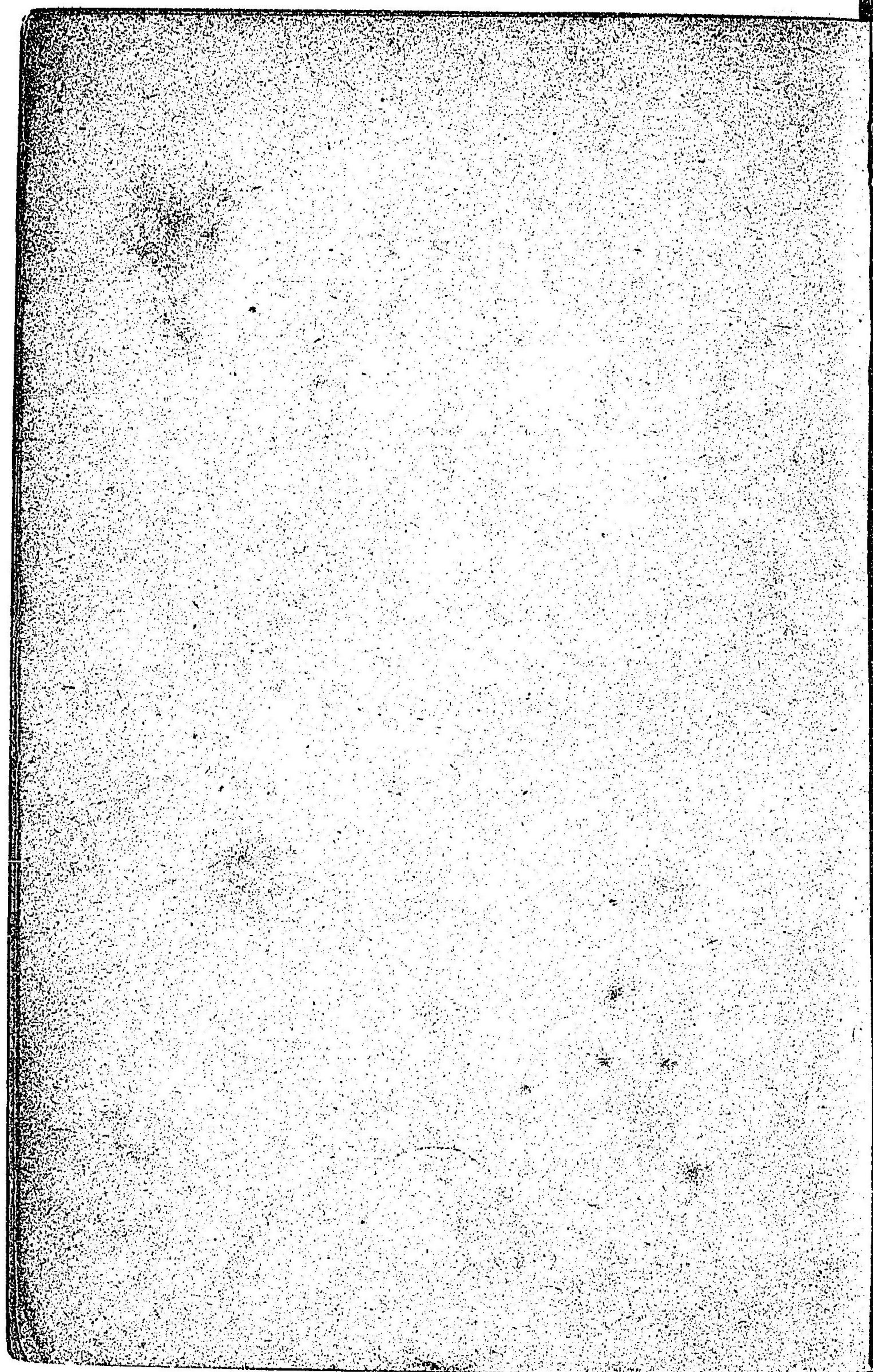
新法令

雲根堂

M30

BBY-0156





C2  
476  
025

待50  
50

目次

●航海獎勵法

●航海獎勵法施行細則

●造船獎勵法

●造船獎勵法施行細則

●登簿船免狀取扱規則

●船舶検査法

●航海獎勵法 實施前帝國船籍ニ編入シタル船舶ニシテ航海

●船舶職員法

●海技免狀取扱規則

●海員懲戒法

●船鑑札規則

頁



四	三	三	二	二	二	一	一	一	一	五
三	四	一	八	七	四	九	五	四	五	

● 船稅規則

四六

● 船主價額須資領守府造船部ニ於テ所有船舶ヲ入渠

四九

若クハ修理セシトスル者出願方

● 船舶ヲ製造シ若クハ取得シタルモ免狀ノ下附ヲ待ツニ暇

五〇

ナキモノ假免狀ノ下附ヲ願出ツルヲ得ルノ件

● 失踪船舶取扱規則

五一

● 海上衝突豫防法

五二

● 西洋形船海員雇入雇止規則

六八

● 登録稅法

七一

● 航海獎勵法

明治二十九年三月二十三日  
法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル航海獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

航海獎勵法

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミテ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ自己ノ所有ニ

專屬シ帝國船籍ニ登録シタル船舶ヲ以テ帝國ト外國トノ間又ハ外國諸港ノ間ニ於テ貨物、旅客ノ運搬ヲ營業トスル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ船舶ニ對シ航海獎勵金ヲ下付ス

第一條 此ノ法律ニ依リ航海獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ總噸數一千噸以上ニシテ一時間十

海里以上ノ最速力ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シタル鐵製又ハ鋼製汽船ニ限ル

第三條 航海獎勵金ヲ受ケムトスル船舶ノ所有者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メ遞信大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第四條 左ノ船舶ハ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得ス

第一 此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登録ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國製造ノ船舶

第二 製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶

第三 帝國政府ノ命令ニ依ルル航路ニ使用スル船舶

第五條 航海獎勵金ハ總噸數一千噸ニシテ一時間十海里ノ最快速力ヲ有スル船舶ニ對シ  
總噸數一噸航海里數一千海里ニ付貳拾五錢ヲ支給シ總噸數五百噸ヲ増ス毎ニ其百分ノ  
十、最快速力一時間一海里ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ二ヲ増給ス但シ總噸數六千五百噸以  
上又ハ最快速力一時間十八海里以上ノ船舶ニ對シテハ總噸數六千噸又ハ最快速力一時  
間十七海里ノ船舶ニ對スル割合ニ依リ支給ス

航海獎勵金ハ製造後五箇年ヲ經過セサル船舶ニ對シテハ全額ヲ支給シ五箇年ヲ經過シ  
タル船舶ニ對シテ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ減退ス

航海獎勵金ヲ算スルニハ一噸未滿一海里未滿ノ端數ヲ算入セス

第六條 航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ之ヲ算定ス  
帝國各港ヘ寄港シ外國ヘ發航スル船舶ニ在テハ最終ノ寄港地ヲ起點トシ又外國ヨリ發  
航シ帝國各港ニ寄港スル船舶ニ在テハ最初ノ寄港地ヲ終點トシテ其ノ航海里數ヲ算定  
ス

航海里數ヲ證明スルニハ寄港地官廳ノ寄港證明ヲ以テスヘシ

第七條 逓信大臣ハ命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ヲ公  
用ノ爲ニ使用スルコトヲ得

船舶所有者前項ノ給與金額ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以

内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ使用ヲ停止セス

第八條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ逓信大臣ノ命令ニ依リ左ノ割合以内ニ  
於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ該船舶ニ乗組マシメ同大臣ノ定ムル手當ヲ支給スヘ  
シ

總噸數一千噸以上二千五百噸未滿 二人

總噸數二千五百噸以上四千噸未滿 三人

總噸數四千噸以上 四人

第九條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ逓信大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ外  
國人ヲ其ノ本支店ノ事務員若ハ該船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス但シ外國ニ於テ死亡其  
ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキハ該地官廳ノ公認ヲ經テ  
之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該船舶ノ所有者又ハ船長ヨリ直ニ逓信大臣ノ許可  
ヲ請フヘシ

第十條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テハ  
逓信大臣ノ命令ニ從ヒ該船舶ニ郵便吏員ヲ無賃乗船セシメ及該船舶ヲ以テ郵便物、小  
包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ヲ無料ニテ運送スヘシ

第十一條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ航海獎勵金ヲ受ケ航海

スル期間並其ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡、貸渡、交換、贈與、質入、書入スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還シタルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スヘカラルル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ若ハ逕信大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 逕信大臣ハ此ノ法律ニ依リ船舶所有者ノ義務ニ關スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代人若ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十三條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十四條 此ノ法律ニ依リ逕信大臣ノ發スル命令又ハ第九條ノ規程ニ違背シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用弁ス

第十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者ハ其ノ因テ得タル金額ヲ償還セシム

第十七條 船舶所有者此ノ法律ヲ犯シタルトキハ逕信大臣ハ航海獎勵金ノ下付ヲ停止スルコトヲ得第十二條ノ場合ニ於テ其ノ代人又ハ船長ノ犯シタルトキ亦同シ

第十八條 前數條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲クル所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十九條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

### ●航海獎勵法施行細則

明治二十九年九月五日  
逕信省令第十五號

航海獎勵法施行細則左ノ通相定メ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

#### 航海獎勵法施行細則

##### 第一章 總 則

第一條 航海獎勵法ニ依リ航海獎勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ營業地地方官廳ヲ經由シテ之ヲ逕信省ニ差出スヘシ

一 船舶件名書(第一號書式)

二 船圖

三 船舶乘組員名簿(第二號書式)

四 營業目論見書(第三號書式)

第二條 船圖ハ左ノ三種ニ分チ寸法ヲ附記スヘシ

一 船體中央橫截面圖

二 船體中心線縱截面圖

三 機關室ヨリ海水又ハ水ニ通スル諸管及嘴子配置ノ平面圖

第三條 同一ノ船舶ニシテ所有者二人以上アルトキハ登簿船免狀ニ記名シタル所有者ヨリ總所有者ノ氏名及其ノ所有ノ關係ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ

第四條 商事會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ

- 一 會社ノ種類
- 二 社員又ハ株主ノ氏名
- 三 會社契約又ハ定款
- 四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ氏名

第二章 船舶ノ検査

第五條 遞信大臣ハ第一條第三條又ハ第四條ノ書類ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ検査官吏ヲシテ其船舶ヲ検査セシムヘシ

第六條 船舶ノ検査ハ遞信大臣ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ執行ス

第七條 船舶ノ最速力ハ其ノ船舶ヲシテ検査官吏ノ認可シタル喫水及自然通風ノ機關力ヲ以テ三海里以上四海里以下ノ距離ヲ六回航走セシメ平均ノ平均數ニ依リ之ヲ算定ス但回轉中ト雖モ常ニ機關ヲ全速力ト爲スヲ要ス

第八條 船舶ハ進水ノ日ヲ以テ製造ノ日トス

進水ノ日ヲ證明スルニハ内國製造ノ船舶ニ在テハ製造地地方官廳、外國製造ノ船舶ニ在テハ該地所管帝國領事ノ證明ヲ以テスヘシ但日ノ不明ナルモノハ其月ノ一日、月ノ不明ナルモノハ其ノ年ノ一月ニ進水シタルモノトス

第九條 検査官吏船内ニ臨檢スルトキハ其ノ船舶ノ所有者又ハ船長ハ検査ニ必要ナル準備ヲ爲シ其ノ命令ヲ遵守スヘシ

第十條 認許證書ヲ受有シタル後其ノ船舶ニ損傷ヲ生シタルトキ若ハ之ニ修繕ヲ加ヘタルトキハ其ノ所有者又ハ船長ヨリ事由ヲ明記シ遞信省ニ届出ツヘシ

第三章 認許證書

第十一條 遞信大臣ニ於テ第五條ノ検査ヲ受ケタル船舶ニ對シ航海獎勵金ヲ下付スヘキモノト認ムルトキハ地方官廳ヲ經由シテ第四號書式ノ認許證書ヲ出願人ニ下付スヘシ

第十二條 認許證書ノ有効期間ハ一箇年以内ニ於テ船舶ノ現狀ニ依リ之ヲ定ム

第十三條 認許證書ヲ亡失毀損シ又ハ該證書ニ記載スル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ再授若ハ書換ヲ出願スヘシ其ノ書換ヲ出願スル場合ニハ舊證書ヲ返納スヘシ

第十四條 認許證書ヲ受有スル者左ノ事項ニ該當スルトキハ直ニ認許證書ヲ返納スヘシ

- 一 證書ノ有効期間滿了ノトキ
- 二 船舶ヲ賣渡、貸渡、交換又ハ贈與シタルトキ
- 三 營業ヲ廢止又ハ停止シタルトキ

四 船舶ヲ喪失又ハ解散シタルトキ

五 航海獎勵金ノ下付ヲ停止セラレタルトキ

六 前數號ノ外航海獎勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ

第十五條 認許證書ヲ受有スル者死亡又ハ破産シタルトキハ其ノ遺族又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

認許證書ヲ受有スル商事會社解散又ハ破産シタルトキハ其ノ清算人又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

第十六條 前三條ノ場合ニ於テ認許證書ノ返納ヲ怠リタルトキハ其ノ證書ノ無効ナル旨ヲ官報ニ告示スヘシ

第十七條 賣買、交換若ハ贈與ニ依リ認許證書有効期間内ノ船舶ヲ取得シタル者更ニ認許證書ヲ受有セントストキハ第一條第三條又ハ第四條ノ書類ニ其ノ船舶ニ對スル登記ノ謄本ヲ添へ遞信省ニ差出スヘシ

相續若ハ結婚ニ因リ認許證書有効期間内ノ船舶ヲ取得シタル者更ニ認許證書ヲ受有セントストキハ其ノ事實ニ對スル市町村長ノ證明書及登記ノ謄本ヲ添へ遞信省ニ差出スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ船舶ノ検査ヲ須弁スシテ認許證書ヲ下付スルコトアルヘシ其ノ有効期間ハ舊證書ノ有効期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 認許證書ヲ受有スル者第一條第三條又ハ第四條ノ書類ニ記載シタル事項ニ訂正ヲ要スルモノアルトキ又ハ之ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第四章 航海

第十九條 認許證書ヲ受有スル者其ノ船舶ヲ航海獎勵金ヲ受クル航海ニ使用セントストキハ其ノ都度豫メ航路、發航地、寄港地、到達地及各港發著期日ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第二十條 認許證書ヲ受有スル船舶ニハ特ニ遞信省ノ檢閲ヲ經タル航海日誌及機關日誌ヲ備へ同日誌記載心得ニ依リ各事項ヲ記入スヘシ

第二十一條 認許證書ヲ受有スル船舶帝國ニ發著スルトキハ税關ニ届出テ發著ノ證明ヲ受クヘシ

外國各港ニ發著スルトキハ帝國領事館又ハ貿易事務館ニ届出テ發著ノ證明ヲ受クヘシ帝國領事館又ハ貿易事務館ノ設ナキ地方ニ於テハ外國官廳ノ證明ヲ受クヘシ

第五章 航海修業生

第二十二條 航海獎勵法第八條ニ依リ航海修業生ヲ船舶ニ乗組マシムルトキハ該船舶ノ所有者ハ之ニ食料ヲ給與シ及相當ノ居室並寢具ヲ貸與スルノ外左ノ割合ニ依リ手當ヲ支給スヘシ



一 海上履歷一年未滿ノ者 月額金三圓以上

二 海上履歷二年未滿ノ者 月額金五圓以上

三 海上履歷二年以上ノ者 月額金七圓以上

第二十三條 航海修業生ヲ乗組マシメタル船舶ノ船長ハ該修業生ヲシテ技術ヲ練習セシ

メ其ノ品行及技能ニ注意シ六箇月毎ニ其ノ狀況ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ但六箇月ニ達

セシテ下船シタルトキハ下船ノ際之ヲ報告スヘシ

第二十四條 航海修業生執務ノ爲メ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ被リタルトキハ該船舶ノ所有

者ハ三箇月ヲ超エサル期間醫藥ノ費用ヲ給與スヘシ

第二十五條 船舶所有者ハ遞信大臣ノ認可ヲ受クルニアラサシハ航海修業生ヲ下船セシ

ムルコトヲ得ス

止ムヲ得サル事故ニ因リ前項ノ認可ヲ受クル暇ナク航海修業生ヲ下船セシメタルトキ

ハ其ノ事由ヲ詳記シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 船舶所有者若シ航海修業生ヲ下船セシムルトキハ下船地ヨリ遞信大臣ノ指定ス

ル地迄ノ旅費ヲ支給スヘシ但失行ニ因リ下船セシムルトキハ此ノ限ニアラス

第六章 外國人ノ使用

第二十七條 認許證書ヲ受有スル者其ノ本支店ノ事務員又ハ該船舶ノ職員トシテ外國人

ヲ使用セントスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ具シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 使用ノ理由

二 契約ノ條項

三 被雇者ノ國籍、氏名、現住所、生年月及履歷

四 海技免狀ヲ受有スル者ナルトキハ其ノ免狀ノ寫

第二十八條 遞信大臣ノ認可ヲ受ク使用シタル外國人ヲ解雇シタルトキハ直ニ其趣ヲ遞

信省ニ届出ツヘシ

第二十九條 外國ニ於テ死亡其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ船舶職員ニ缺員ヲ生シ外國

人ヲ以テ之ヲ補ハントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ帝國領事館又ハ貿易事務館ノ公認

ヲ受ク事後第二十七條ノ手續ヲ爲スヘシ但帝國領事館又ハ貿易事務館ノ設ナキ地ニ在

テハ外國官廳ノ公認ヲ受クヘシ

第七章 郵便物

第三十條 認許證書ヲ受有スル船舶航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テ各地ニ發着ス

ルトキハ其ノ都度豫メ該地帝國郵便局ニ届出ツヘシ

第三十一條 郵便吏員乗船スルトキハ事務取扱ニ差支ナキ相當ノ船室ヲ供シ且相當ノ待

遇ヲ爲スヘシ

第三十二條 郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ノ遞送ヲ命セラレタルトキハ

盜難、濕氣、火災等ノ虞ヲ安全ナル場所ヲ選ビ之ヲ保管スヘシ

第三十三條 遞送ヲ命セラレタル郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ハ郵便更員乗船スルトキハ該吏員、郵便更員乗船セザルトキハ本船ノ船長若ハ一等運轉手之カ取扱ヲ爲スヘシ

第三十四條 航海中遭難其ノ他ノ事故ニ因リ郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ヲ遞送スルトキハ別ニ定ムル方法ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第三十五條 郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ノ遞送ヲ命セラレタル船舶ハ郵便旗章ヲ掲揚スヘシ

第三十六條 郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ノ遞送並授受ノ手續ハ別ニ之ヲ定ム

第八章 船舶ノ使用

第三十七條 遞信大臣航海獎勵法第七條ニ依リ船舶ヲ使用セントスルトキハ其期日、期間、給與金額及回航地ヲ定メ之ヲ該船舶ノ所有者又ハ船長ニ通達スヘシ  
船舶所有者又ハ船長ハ前項ノ期日迄ニ指定地ニ本船ヲ回航セシムヘシ

第九章 航海獎勵金

第三十八條 各港間ノ最近里數ハ海軍水路部刊行最新ノ海圖ニ據リ其ノ刊行ナキ航路ニ在テハ英國海軍水路部刊行最新ノ海圖ニ據リ之ヲ算定ス

第三十九條 航海獎勵金ヲ請求スル者ハ一航海ヲ終リタル毎ニ第五號書式ノ請求書及第

六號書式ノ明細書ニ航海日誌其ノ他航海ノ事實ヲ證明スルニ必要ナル書類ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第四十條 遞信省ニ於テハ前條ノ請求書及關係書類ヲ審査シテ航海獎勵金ヲ船舶所有者ニ下付スヘシ

第四十一條 船舶所有者、代人又ハ船長ニ於テ航海獎勵法違反ニ關シ起訴セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定スル迄航海獎勵金ノ下付ヲ中止スヘシ

第十章 雜則

第四十二條 天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ船舶ノ航行ニ堪ヘサル場合ニ於テ航海獎勵法第十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ該船舶長又ハ所有者ヨリ其ノ事由ヲ具シ帝國領事館又ハ貿易事務館ノ公認ヲ受ケ遞信省ニ届出ツヘシ但帝國領事館又ハ貿易事務館ノ設ナキ地ニ在テハ外國官廳ノ公認ヲ受クヘシ

第四十三條 認許證書ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ毎年少クモ一回計算ヲ閉鎖シ損益計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書ヲ作り遞信大臣ニ報告スヘシ

第四十四條 認許證書ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ計算監査ノ爲メ遞信大臣ノ命スル監査官吏營業所ニ臨檢スルトキハ帳簿及證憑書類ヲ提出シテ其ノ檢閱ニ供スヘシ

第四十五條 認許證書ヲ受有スル者外國人ト三箇月以上繼續スル商事契約ヲ締結シタルトキハ契約條項ヲ具シ直ニ遞信省ニ届出ツヘシ

●造船獎勵法

明治二十九年三月二十三日  
法律第十六號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル造船獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造船獎勵法

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミナ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ遞信大臣ノ定ムル資格ヲ備フル造船所ヲ設ケ船舶ヲ製造スル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ製造船舶ニ對シ造船獎勵金ヲ下付ス

第二條 此ノ法律ニ依リ造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ鐵製又ハ鋼製ニシテ總噸數七百噸以上ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ從ヒ其ノ監督ヲ受ケ製造シタルモノニ限ル

第三條 造船獎勵金ハ總噸數七百噸以上一千噸未滿ノ船舶ニ在テハ船體總噸數一噸ニ付金十二圓、一千噸以上ノ船舶ニ在テハ一噸ニ付金二十圓ヲ支給シ其ノ機關ヲ併セ製造シタル場合ニハ一實馬力ニ付金五圓ヲ増給ス但シ帝國内ノ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメタルトキト雖豫メ遞信大臣ノ許可ヲ得タルトキ亦同シ

第四條 造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ノ船體及機關ニハ遞信大臣ノ定ムル規程ニ依ルノ外國製品ヲ供用スルコトヲ得ス

第五條 詐偽ノ所爲ヲ以テ造船獎勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得タル造船獎勵金ハ之ヲ償還セシム

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用弁ス

第七條 前二條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第八條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十五箇年間之ヲ施行ス

●造船獎勵法施行細則

明治二十九年九月五日  
遞信省令第十六號

造船獎勵法施行細則左ノ通相定メ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

造船獎勵法施行細則

第一條 造船獎勵法ニ依リ造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ營業地地方官廳ヲ經由シテ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

一 船舶件名書(第一號書式)

二 船圖

三 船體機關製造仕樣書

四 資格明細書

第二條 資格明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 造船所ノ位置

- 二 工場及船臺ノ面積(略圖ヲ添付スヘシ)
  - 三 機械ノ種類
  - 四 技師ノ族籍、氏名、履歴
- 第三條 船圖ハ左ノ十一種ニ分チ寸法ヲ附記スヘシ

- 一 船體線圖
- 二 船體中央橫截面圖
- 三 船體中心線縱截面圖
- 四 船體各甲板及艙内平面圖
- 五 裝帆圖
- 六 汽機橫截面圖
- 七 汽機縱截面圖
- 八 滑瓣整調圖
- 九 汽鐘橫截面圖
- 十 汽鐘縱截面圖
- 十一 安全瓣裝置圖

第四條 同一ノ造船所ニシテ所有者二人以上アルトキハ其ノ一人ヲ總代トシ總所有者ノ氏名及其ノ所有ノ關係ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ

第五條 商事會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ

- 一 會社ノ種類
- 二 社員又ハ株主ノ氏名
- 三 會社契約又ハ定款
- 四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ氏名

第六條 造船獎勵法第三條ノ但書ニ依リ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメントスル者ハ願書ニ其ノ旨ヲ記載シ前數條ノ書類ノ外其ノ工場ノ位置、面積及機械ノ種類ヲ記載シタル書面並製造請負契約書ヲ差出スヘシ

第七條 造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ備フル造船所ヲ有スル者ニ限ル  
一 造船獎勵金ヲ受ケントスル船舶ヲ製造スルニ必要ナル船臺及諸機械ヲ備フルコト

二 船臺專任技師及機關專任技師各一人以上ヲ置クコト

第八條 第七條ニ定ムル技師ハ帝國大學工科大學又ハ之ト同等以上ノ學科ヲ備フル學校ヲ卒業シ三箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シタル者又ハ滿七箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シ遞信大臣ノ定ムル手續ニ依リ試験ヲ受ケ及第シタル者ニ限ル

第九條 遞信大臣ハ第一條第四條第五條又ハ第六條ノ書類ヲ受理スヘキモノト認ムルト

キハ検査官吏ヲシテ造船所ノ資格、製造仕様書及船圖ヲ調査セシムヘシ  
第十條 検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ製造仕様書及船圖ヲ訂正若ハ追加セシメ又  
ハ造船所ニ臨檢スルコトアルヘシ

第十一條 検査官吏ノ報告ニ依リ遞信大臣ニ於テ造船獎勵金ヲ下付スヘキモノト認ムル  
トキハ製造船舶ニ對シ地方官廳ヲ經由シテ出願人ニ第二號書式ノ認許證書ヲ下付スヘ  
シ

第十二條 認許證書ヲ受有スル者ハ其ノ船舶ノ製造ニ關シ検査官吏ノ監督ヲ受クヘシ  
遞信大臣ハ造船所ニ於テ検査官吏ノ指揮ニ背戻シ又ハ其ノ命令ヲ遵奉セサル所爲アリ  
ト認ムルトキハ認許證書ノ返納ヲ命スヘシ

第十三條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ船體及機關ニハ左ニ掲クルモノ、外外國製品  
ヲ供用スルヲ得ス

- 一 船首材
- 二 船尾骨材
- 三 龍骨
- 四 雙螺旋軸支肘
- 五 徑七吋以上ノ諸軸
- 六 諸發條

- 七 鑄鋼製諸品
- 八 鐵形及助形火爐
- 九 專賣品

第十四條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶竣工シタルトキハ検査官吏ノ検査ヲ受ケ試運轉  
ヲ執行シ其ノ立會ヲ以テ總噸數及實馬力ヲ算定スヘシ

第十五條 總噸數ハ船舶積量測度規則ニ依リ算定スヘシ  
實馬力ハ航海獎勵法施行細則第七條ノ手續ニ依リ船舶ヲ航走セシメ毎回各汽機ヨリ取  
リタル示壓圖ニ依リ算定シタル實馬力ノ平均數トス但汽機回轉數ハ示壓圖ヲ取ル時間  
ニ於ケル平均數ヲ用ウヘシ

第十六條 認許證書ヲ所有スル者第十四條ノ手續ヲ了リタルトキハ第三號書式ノ請求書  
ニ認許證書ヲ添ヘ遞信省ニ造船獎勵金ノ下付ヲ出願スヘシ

第十七條 遞信省ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ審査ノ上造船獎勵金ヲ出願人ニ下  
付スヘシ

第十八條 此ノ細則ニ規定ナキモノニ付テハ航海獎勵法施行細則ノ規定ヲ準用ス  
(書式ハ之ヲ略ス)

●登簿船免狀取扱規則

明治二十九年四月一日  
遞信省令第三號

登簿船免狀取扱規則左ノ通之ヲ定ム

登簿船免狀取扱規則

第一條 登簿船免狀ヲ受有スヘキ船舶ヲ取得シ帝國ノ船籍ニ編入スル者ハ本船管轄廳ヲ

經由シテ願書ヲ遞信省ニ差出シ登簿船原簿ニ登録ヲ受ケ登簿船免狀ノ下付ヲ請フヘシ

第二條 第一條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル件名書並ニ外國人ヨリ取得シタル船舶

ニ係ルトキハ其ノ取得ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

一 船名

一定繫港

一本船管轄廳名

一 船ノ種類

一 甲板ノ層數

一 船體ノ材料

一 檣ノ數

一 船骨ノ材料

一 網具ノ裝置

一 船尾ノ形狀

一 製造地名

一 製造年月

一 造船工長ノ氏名

一 船ノ原名

一 舊船免狀ノ番號

一 船主ノ氏名住所

一 一箇年ノ船稅

一 量噸甲板上最大ノ長

一 内法リ最大ノ幅

一 艙室ニ於テ量噸甲板ヨリ船底中央ノ内板ニ至ル深

一 量噸甲板下部ノ噸數

一 量噸甲板上諸部ノ噸數(若シアレハ)即チ

甲板間ノ場所

船尾室

圓室

其他ノ場所(若シアレハ)

一 總噸數

一 内除去スヘキ噸數

機關室ノ噸數

乘組人常用室ノ噸數

一登簿噸數

一機關ノ數

一公稱馬力

第三條 第一條ノ願書ヲ受ケタル管轄廳ハ船舶積量測度規則ニ從ヒ之ヲ測度シ第一號書式ノ測度表ヲ作り件名書ヲ照查シ願書及關係書類ト共ニ遞信省ニ進達スヘシ

第四條 登簿船原簿ニハ各船毎ニ番號信號符字並ニ第二條ノ事項ヲ各別ニ登錄スヘシ

第五條 登簿船原簿ニ登錄シタル事項又ハ登簿船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ本船管轄廳ヲ經由シテ遞信省ニ其ノ事由ヲ記載シタル願書ヲ差出シ登錄ノ變更及免狀ノ書換ヲ請フヘシ但船主ノ變更シタル場合ニハ登記ノ謄本ヲ添付スヘシ

第六條 船舶ノ積量ニ變更ヲ生シタルトキハ管轄廳ハ更ニ測度表ヲ調製シ之ヲ遞信省ニ進達スヘシ

第七條 登簿船免狀ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ本船管轄廳ヲ經由シテ遞信省ニ再授ヲ出願スヘシ

第八條 登簿船免狀ヲ受有スル船舶破壊、喪失、失踪、解撤ニ歸シタルトキ若ハ日本船舶タル資格ヲ失ヒタルトキ又ハ登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル船舶ト爲リタルトキハ

本船管轄廳ヲ經由シテ遞信省ニ事由ヲ記載シタル願書ヲ差出シ登簿船原簿ノ削除ヲ請ヒ同時ニ受有ノ登簿船免狀ヲ返納スヘシ

破壊、喪失若ハ解撤ノ場合ニハ前項ノ願書ニ事由ノ發生シタル場所及其ノ日時ヲ明記スヘシ

失踪ノ場合ニハ明治二十六年(三月)遞信省令第六條失踪船取扱規則第二條第二項ニ規定スル期間滿了ノ後出願スヘシ

第九條 第一條第五條又ハ第八條ニ依リ登錄又ハ登錄ノ變更若ハ削除ヲ出願スル者ハ登錄稅法第四條ニ從ヒ相當ノ登記印紙ヲ貼用シタル登錄稅上納書ヲ願書ト共ニ差出スヘシ

貼用シタル印紙ニハ上納書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ署名ノ下ニ押捺セル印ヲ以テ削印スヘシ

第十條 登錄稅ハ登簿噸數ニ依リ之ヲ算定ス

登錄稅法第四條第四號ニ關シテハ第四條ノ每一事項ヲ各一件トス

附則

第十一條 此規則ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第十二條 明治十二年(五月)內務省丙第二十五號達ハ此ノ規則施行ノ日ヲ廢止ス

(西洋形船測度表零ス)

### 船舶検査法

明治二十九年四月六日  
法律第六十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船舶検査法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 船舶検査法

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除ク外此ノ法律ノ規程ニ依リ検査ヲ受クヘシ

##### 一 海軍艦船艇

二 登録噸數十五噸未満若ハ積石數百五十石未満ノ帆船

三 湖川其ノ他靜穩ノ海上ヲ航行スル帆船

四 櫓權ノミヲ以テ航行スル船舶

第二條 此ノ法律ニ依リ検査ヲ受クヘキ汽船ハ遠洋航船、近海航船、沿海航船、平水航船ノ四種トシ帆船ハ遠洋航船、近海航船ノ二種トス

第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ其ノ航行期間満了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス

第五條 登録噸數十五噸以上若ハ積石數百五十石以上ノ船舶ノ検査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル船舶司檢所之ヲ行ヒ登録噸數十五噸未満ノ汽船ノ検査ハ其ノ仕出地ノ地方官廳之

ヲ行フ

第六條 検査官吏船舶ヲ検査シ遞信大臣ノ定ムル検査規程ニ適合スルモノト認ムルハ本船ノ航路定限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ

第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ認可スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第九條 船舶ノ検査ニ對シ不服アル者ハ其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ其ノ決定前船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 遞信大臣ノ特ニ定ムル場合ノ外船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定限、航行期間ヲ超エテ航行シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐偽ノ所爲ヲ以テ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受ケ又ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シ又ハ検査官吏ノ臨視ヲ拒ミ又ハ航行停止ノ命ニ違背シ又ハ必要ナル屬具ノ整備ヲ爲サスシテ



船舶ヲ航行ノ用ニ供シタル者亦同シ

船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

第十二條 船舶ノ航路定限、航行期間、旅客定員及汽壓制限ニ關スル規程其ノ他此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

第十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ニ依リ交付シタル船舶検査證書

ハ其ノ有效期間滿了マテ效力ヲ有ス

第十六條 此ノ法律施行ノ際現存スル積石數百五十石以上ノ帆船ハ遞信大臣ノ定ムル順序ニ依リ漸次検査ヲ受クルマテ船舶検査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供スルコトヲ

得

第十七條 此ノ法律ハ外國ノ船籍ニ屬スル船舶ヲ借入レ帝國各港ノ間又ハ帝國ト外國ト

ノ間ニ於テ航行ノ用ニ供スル者ニモ亦之ヲ適用ス

航海獎勵法實施前帝國船籍ニ編入シタル船舶ニシテ  
航海獎勵金ヲ得ントスルモノ、試験ニ關スル件

明治二十九年九月五日遞信省令第十八號

航海獎勵法實施前帝國船籍ニ編入シタル船舶ニシテ造船規程第十條又ハ第三百條ノ規程ニ依リ證明書ヲ以テ試験ニ代用セムコトヲ出願スル者ニハ其ノ提出期限ヲ明治三十年三月三十一日マテ猶豫ス

前項猶豫ヲ受ケタル船舶ニハ其ノ認許證書ニ左ノ條件附記シテ之ヲ交付スヘシ

一 此ノ認許證書ハ(船主名)ニ於テ明治三十年三月三十一日マテニ造船規程第十條又ハ

第三百條ノ證明書ヲ提出シテ遞信大臣ノ認可ヲ受クルニアラサレハ此ノ認許證書ノ

日付ニ遡リ其ノ效ナキモノトス

一 前項ノ認可ヲ受クルニアラサレハ其ノ航海ニ對シテ航海獎勵金ヲ下付スルコトナカルヘシ

一 猶豫期限中ト雖モ造船規程ニ依リ試験ヲ受クルコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テ右試験

ニ合格シタルトキハ前二項ノ條件ヲ解除シタルモノトス

一 航海獎勵法ニ掲ケタル各般ノ義務ハ猶豫期限中ト雖モ之ヲ履行スヘキモノトス

● 船舶職員法

明治二十九年四月六日  
法律第六十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船舶職員法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
船舶職員法

第一條 日本船舶ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

第四條 各船舶ニ乗組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第五條 海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シ且海員名簿ニ登

録ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ遞信

大臣ニ於テ海員試験規程ニ合格スト認ムル者ニハ試験ヲ用井スシテ相當ノ免狀ヲ授與

スルコトヲ得

第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ海員試験ヲ受クルコトヲ得ス又船舶職員タル

コトヲ得ス

一 公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者

二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復讐セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償

ヲ終ヘサル者

三 瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者

四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者

第七條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長ノ免狀ハ他ノ船長及運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種一等運轉士ノ免狀ハ他ノ運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種二等運轉士ノ免狀ハ乙種各運轉士及丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種船長ノ免狀ハ乙種各運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種一等運轉士ノ免狀ハ乙種二等運轉士ノ免狀ニ對シ、丙種船長ノ免狀ハ丙種運轉士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス  
機關長ノ免狀ハ一等機關士以下ノ免狀ニ對シ、一等機關士ノ免狀ハ二等機關士以下ノ免狀ニ對シ、二等機關士ノ免狀ハ三等機關士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

第八條 左ニ掲クル者ハ二十圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ニ違背シ相當ノ船舶職員ヲ乘組マシメサル者

二 第二條及第四條ニ違背シ相當ノ海技免狀ヲ受有セスシテ船舶職員ト爲リタル者

三 第六條ニ違背シ船舶職員ト爲リタル者

四 海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五 海技免狀行使ノ假停止若ハ差押ヲ受ケ其ノ職務ヲ執リタル者

第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

附則

第十條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十一條 明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム

前項ニ掲ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ代用スルコトヲ得  
第十三條 此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス

第十四條 遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乗組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歲以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ試験ヲ用井スシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

第十五條 遞信大臣ハ第一號表中近海航船ニシテ登簿噸數五百噸未滿ノ汽船及沿海航船ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乘組マシメサルコトヲ得

(表ハ略ス)

●海技免狀取扱規則

明治二十九年四月一日  
遞信省令第四號

海技免狀取扱規則左ノ通改正ス

海技免狀取扱規則

第一條 此ノ規則ニ於テ海技免狀ト稱スルハ西洋形船船長運轉手機關手免狀規則ニ依リ授與スル免狀ヲ謂フ

第二條 船長運轉手機關手試験規程ニ依リ及第證書ヲ得タル者海技免狀ヲ受ケントスルトキハ願書ニ及第證書ノ謄本ヲ添ヘ試験ヲ受ケタル船舶司檢所ヲ經由シテ之ヲ遞信省ニ差出シ海員名簿ニ登録ヲ請フヘシ

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則第八條ニ依リ外國政府ノ海技免狀ヲ受有スル者帝國政府ノ海技免狀ヲ受ケントスルトキハ願書ニ免狀ノ謄本及履歷證明書並ニ本邦人ニ在テハ所管市町村長外國人ニ在テハ本國領事ノ身分證明書ヲ添ヘ最寄船舶司檢所ヲ經由シテ之ヲ遞信省ニ差出シ海員名簿ニ登録ヲ請フヘシ

第三條 遞信省ニ於テ前條ノ願書ヲ受ケ海技免狀ヲ授與スヘキモノト認ムルトキハ左ノ事項ヲ海員名簿ニ登録シ第一號第二號第三號若クハ第四號書式ノ海技免狀ヲ調製シ本人又ハ其ノ代理人ニ交付スヘシ

一 免狀番號

二 職名

三 氏名

四 族籍

五 生年月日

第四條 第二條第一項ニ依リ海技免狀ノ下付ヲ出願スル者至急航海ヲ要シ其ノ下付ヲ待ツノ暇ナキトキハ及第證書ノ日付ヨリ起算シ三箇月以内該證書ヲ以テ海技免狀ニ代用スルコトヲ得

第五條 下等ノ海技免狀ヲ受有スル者高等ノ海技免狀ヲ受有スルトキハ直ニ下等ノ海技免狀ヲ遞信省ニ返納スヘシ

第六條 海員名簿ニ登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ最寄船舶司檢所ヲ經由シテ遞信省ニ登録ノ變更ヲ出願スヘシ

海技免狀ヲ亡失若クハ毀損シタルトキ又ハ氏名族籍其ノ他免狀面記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ三十日以内ニ其ノ事由ヲ具シ氏名ヲ變更シタル場合ニ於テハ所管市町村長ノ證明ヲ受ケ最寄船舶司檢所ヲ經由シテ免狀ノ書換若ハ再授ヲ遞信省ニ出願スヘシ但免狀ノ再授ヲ請フ者ハ二名以上ノ證人ヲ立ツヘシ

第七條 第二條ニ依リ登録ヲ出願シ又ハ第六條第一項ニ依リ登録ノ變更ヲ出願スル者ハ願書ト與ニ登録稅法第九條ニ從ヒ相當ノ登記印紙ヲ貼用シタル登録稅上納書ヲ差出スヘシ

貼用シタル印紙ニハ上納書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ署名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ

消印スヘシ

第八條 明治九年第八十二號布告ニ依リ授與シタル假免狀船長假免狀運轉手假免狀機關手及明治九年第九十四號布告ニ依リ授與シタル小形船船長小形船機關手ニハ第七條第一項ヲ適用セス

第九條 海技免狀ヲ受有スル者住所ヲ變更シタルトキハ所管市町村長ノ證明ヲ受ケ三十日以内ニ最寄船舶司檢所ヲ經由シテ遞信省ニ届出ツヘシ

第十條 海技免狀ヲ受有スル者廢業若クハ死亡シタルトキハ本人又ハ遺族者ヨリ其ノ事由ヲ具シ三十日以内ニ最寄船舶司檢所ヲ經由シテ該免狀ヲ遞信省ニ返納スヘシ

第十一條 第五條第九條及第十條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
附 則

第十二條 此規則ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

(書式ハ略ス)

### ●海員懲戒法

明治二十九年四月六日  
法律第六十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル海員懲戒法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

### 海員懲戒法

#### 第一章 總 則

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ

二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ間ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ

四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認め正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

七 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 免狀行使ノ禁止

二 免狀行使ノ停止

三 譴責

第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條 海員審判所ハ左ノ原因アル時ハ審判ヲ行ハス

一 確定裁決

二 時效

第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第六條 時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ

準用ス

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス

地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ遞信省ニ置ク

第九條 海員審判所ニハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク

審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等海員審判所ノ審判ハ

審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定繫場ヲ管轄スル

地方海員審判所ニ屬ス

同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス

第十三條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付

スルノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由シテ高等海員審判所ニ申請

書ヲ差出スヘシ

高等海員審判書ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便益ナリト認ムルトキハ其ノ

決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判所ノ管轄權ニ屬ス

第十四條 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ依リ何レノ海

員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス

一 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行

フ事ヲ得サル時

二 二以上ノ地方海員審判所審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定裁決ヲ爲シタルトキ

第三章 審判前ノ手續

第十五條 船舶司檢所、司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長、及浦役人ニ於テ此ノ法

律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ

管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十六條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十七條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ又必要ニ應シ實地臨檢スルコトヲ得

第十八條 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ  
前項ノ申立ヲ爲ストキハ證憑其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

第四章 地方海員審判所ノ審判

第十九條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

第二十條 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第二十一條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

受命審判官ハ證人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命シ若ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受

命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ勾引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス

第二十三條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十四條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

第二十五條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ

第二十六條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ

審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

審判ヲ繼續セスト決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ

第二十七條 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十八條 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用

第二十九條 開庭中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第三十條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス  
審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十一條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得  
第三十二條 被審人ハ補佐人ヲ用フルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限

第三十三條 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席  
裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ  
決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第三十四條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス  
被審人刑事訴訟ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

第三十五條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ審判ヲ行フヘ  
カラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得  
第三十六條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タス

直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第三十七條 裁決ニハ其ノ理由及證憑ヲ明示スヘシ  
第三十八條 裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判  
第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スル  
コトヲ得

第四十條 控告ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス  
闕席裁決ニ對スル控告ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

第四十一條 控告ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ  
原地方海員審判所ハ直ニ該申立書及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ

第四十二條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用  
ス

第四十三條 高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ  
爲スヘシ

控告ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
第六章 執行處分

第四十四條 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス



第四十五條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ遞信省ニ送付スヘシ  
免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間満了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ  
免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出ササルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

第七章 罰則

第四十六條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス

若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海員審判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第四十九條 海員審判所ノ事務章程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 此ノ法律施行ノ際西洋形船船長運轉手機關手免狀規則第十條ニ依リ審問中ノ事件ハ此ノ法律ニ依リ管轄權ヲ有スル地方海員審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判定ヲ受ケタルモノハ第五章ノ規程ニ依リ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

船鑑札規則

明治二十九年十二月五日  
遞信省令第二十五號

船鑑札規則左ノ通定ム

船鑑札規則

第一條 登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除ク外船鑑札ヲ受有スヘシ

一 航行ノ用ニ供セサル船舶

二 登簿噸數五噸未滿若ハ積石數五十石未滿ノ帆船

三 櫓權ノミヲ以テ運航シ若ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運航スル鐵船

第二條 第一條ノ船鑑札ヲ受有セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル件名書ヲ添附シ本船定繫所ヲ管轄スル地方官廳ニ其ノ下付ヲ申請スヘシ

- 一 船名
  - 二 定繫所
  - 三 船ノ種類(汽船若ハ帆船等)
  - 四 船質(鐵、鋼若ハ木)
  - 五 橋數
  - 六 製造地名
  - 七 製造年月
  - 八 造船工長氏名
  - 九 船ノ原名(若シアラハ)
  - 十 所有者ノ氏名住所
  - 十一 尺度(量噸甲板最大ノ長、内法リ最大ノ幅、艙室ニ於テ量噸甲板ヨリ船底中央ノ内板ニ至ル深)
  - 十二 總噸數
  - 十三 登簿噸數
  - 十四 公稱馬力(汽船ニ在テハ)
- 日本形船舶ノ件名書ニハ第十一號以下ノ事項ヲ除キ積石數ヲ記載スヘシ
- 第三條 地方官廳ニ於テ第二條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ件名書ニ記載シタル事項ヲ審

- 查シ第一號書式若ハ第二號書式ノ船鑑札ヲ下付スヘシ
- 第四條 船鑑札ハ船舶ニ備ヘ置キ本船管理者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ要スルトキハ之ヲ提供スヘシ
- 第五條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ疏明シ三十日以内ニ船鑑札ノ書換ヲ申請スヘシ但所有者ノ變更シタル場合ニハ其ノ申請書ニ之ニ關スル證明ヲ具備スヘシ
- 定繫所ヲ移轉シ本船管轄官廳ヲ變更スルニ至リタルトキハ三十日以内ニ舊管轄官廳ニ船鑑札ヲ返納シ且件名書ヲ添附シテ其證明ヲ申請シ舊管轄官廳ニ於テ件名書ノ證明ヲ付與シテヨリ三十日以内ニ之ヲ添附シ新管轄官廳ニ船鑑札ノ下付ヲ申請スヘシ
- 第六條 船鑑札ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ管轄官廳ニ其ノ再授ヲ申請スヘシ
- 第七條 船舶破壞、喪失、失踪、解撤ニ歸シタルトキ若ハ日本船舶タル資格ヲ失ヒタルトキ又ハ登簿船免狀ヲ受有スヘキ船舶ト爲リタルトキハ其ノ事由ヲ疏明シ三十日以内ニ管轄官廳ニ船鑑札ヲ返納スヘシ
- 第八條 第一條第四條第五條第七條ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 附則
- 第九條 此ノ規則ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス
- 第十條 此ノ規則施行ノ際現在ノ船舶ハ船稅規則ニ由リ從來受有シタル船鑑札ヲ以テ此

ノ規則ニ定ムル船鑑札ニ代用スルコトヲ得  
(書式密之)

● 船稅規則 明治十六年四月  
布告第十三號

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス  
但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

(別冊)

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ  
乞フヘシ

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出  
檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出  
檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方

廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船

百噸ニ付一年金拾五圓

同 風帆船

同 金拾圓

日本形船積石(十八年第十六號布告ヲ以テ日本形五百石  
五拾石以上)以上ノ船舶製造ヲ二十年一月ヨリ禁止ス百石ニ付同金貳圓

同 積石五拾石未滿石積ニ長自船梁三間迄ハ一年金三拾錢  
解漁船小廻船石積ニ長自船梁三間迄ハ一年金三拾錢

但三間以上一間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船 長自船梁三間迄ハ一年金五拾錢  
至船梁

但三間以上一間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ廻漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五拾石未滿ノ船並解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ

願出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換

シタル時ハ其旨定繫場所所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ  
倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バッテリー」船ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス其  
前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り定繫場所所在ノ地方廳ニ上納  
スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數  
ニ隨ヒ稅金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所所在ノ地方  
廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ  
辨セシムヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所所在ノ  
地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ其脫稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條  
ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重  
數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

● 船主横須賀鎮守府造船部ニ於テ所有船舶ヲ入渠

若クハ修理セントスル者出願方 明治二十二年六月 海軍省告示第七號

船主横須賀鎮守府造船部ニ於テ所有船舶ヲ入渠若クハ修理セントスル者ハ入渠  
修理トノ別ニ隨ヒ左ニ掲クル事項ヲ願書ニ明載シ該造船部ヲ經テ横須賀鎮守府司令長

官ニ願出可シ

入渠願書ニ記載スヘキ事項

- 一 船名
  - 一 長サ
  - 一 幅
  - 一 深
  - 一 喫水(前後)
  - 一 推進器種類
  - 一 舵及スクルーシヤフト拔方ヲ要スル工事ノ有無
  - 一 船底ノ形狀普通ナラサルトキハ其形狀
  - 一 滯渠ノ概定日數
  - 一 入渠ノ目的(船底掃除又ハ塗方ノ類)
- 右ノ外入渠ニ必要ト思考スル事項ヲ記ス可シ

修理願書ニ記載スヘキ事項

- 一 船名
- 一 修理箇所及其要點

●船舶ヲ製造シ若クハ取得シタルモ免狀ノ下附ヲ待ツ

ニ暇ナキモノ假免狀ノ下附ヲ願出ツルヲ得ルノ件

明治二十六年二月遞信省令第三號

西洋形船登簿船免狀ヲ受有スヘキ船舶ヲ製造シ若クハ之ヲ取得シ該免狀ノ下付ヲ願出ツ

ルモ其下付ヲ待ツノ暇ナク至急航海ヲ要スルトキ又ハ船籍港外ニ在テ同上ノ船舶ヲ製造シ若クハ之ヲ取得シタルトキハ國內ニ於テハ地方官廳外國ニ於テハ日本領事館ニ假免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得其効用期限ハ免狀下付ノ日ヨリ起算シ地方官廳ヨリ交付シタルモノハ三箇月領事館ヨリ交付シタルモノハ六箇月トス但正當ノ理由アルモノハ此ノ限ニアラス

●失踪船取扱規則

明治二十六年三月 遞信省令第六號

失踪船取扱規則左ノ通相定ム

失踪船取扱規則

第一條 船舶發航ノ後到達港ニ到達セス其所在分明ナラサルトキハ船主ハ左記ノ事項ヲ記シ市町村長ノ加印ヲ受ケ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ届出ツヘシ

- 一 船舶ノ名稱、種類、積量、馬力(汽船ナルトキハ)及ヒ船主ノ氏名
- 二 載貨ノ種類、量目及ヒ其見積代價
- 三 船舶乗組員及ヒ旅客ノ族籍、身分、氏名、年齢
- 四 發港地ノ名及ヒ其日時

第二條 前條ノ届出ハ之ヲ官報ニ掲載ス

官報掲載ノ日付ヨリ起算シ内國航海船ニ在ツテハ六箇月外國航海船ニ在ツテハ一箇年

ヲ經過スルモ船舶ノ所在尙ホ分明ナラザルトキハ踪跡ヲ失ヒタルモノト看做シ市町村長ニ於テ其船舶ヲ削除スルト同時ニ其旨ヲ記シ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ報告スヘシ

第三條 船舶ヲ削除セラレタル後其船舶ノ所在ヲ發見シタルトキハ船主ハ其旨ヲ記シ市町村長ニ届出ツヘシ市町村長ハ其船舶ヲ復活スルト同時ニ其旨ヲ記シ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ報告スヘシ

●海上衝突豫防法 明治二十五年六月 法律第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海上衝突豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海上衝突豫防法

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用非ザルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用非ザルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中漁船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條 漁船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ

- 一 前檣若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前檣ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ
- 二 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ
- 三 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四 本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル様ニ爲スヘシ

五 漁船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條 漁船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ、連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右ニ一箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後橋ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル様ニ爲スヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ(漁船ナレバ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒色ノ形象ニ一

箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(漁船ナレバ其ノ白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ、連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用井中央ノ一箇ハ白色豎菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘカラス

第六條 小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ樣點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ

見得易キ様各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時緑光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成  
ルヘク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル様ニ爲スヲ要ス

此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色、紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗り  
且適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條 總積量四十噸未滿ノ漁船及櫛櫓若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未滿ノ船航行中ハ  
必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若之ヲ  
掲ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一 四十噸未滿ノ漁船

甲 船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷縁上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ

所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘ

キ白燈一箇ヲ掲クヘシ

乙 第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得

ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左

舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ掲クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈

ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二 漁艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷縁上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其ノ白燈

ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 櫛櫓若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未滿ノ船ハ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用弁

タル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄

リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠

光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第八條 水先船其ノ水船區ニ於テ營業ヲ爲ストキハ他船ニ要スル燈ヲ掲クヘカラス單ニ

周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ掲ク且十五分時ヲ超エサル間際ヲ以テ閃火一箇又

ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ右ノ外綠紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他

船ニ近寄り行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ一時之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時

綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要スル船舶ヘ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ掲クル代リニ隨時之ヲ表示

シ又舷燈ヲ兩舷ニ掲クル代リニ一面ハ綠色、一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用弁タル燈籠一箇ヲ

手近カニ備置キ前項ニ從テ之ヲ使用スルヲ得

水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲サルトキハ其ノ積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈ヲ掲

クヘシ

第九條 凡ソ漁船其ノ業ニ從事スルトキハ本條各項ノ規定ニ依ルヘシ但シ航行中ノモノ



又ハ本條ニ規定ナキモノハ其積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

一 刺網ヲ用井テ漁業ニ従事スル船ハ最モ見得易キ所ニ於テ二箇ノ白燈ヲ龍骨線上前  
後ニ五尺乃至十尺ヲ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリモ六尺乃至十尺下方ニ掲クヘシ此ノ  
燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

二 線網ヲ用井テ漁業ニ従事スル船ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

甲 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ尙其ノ下  
方六尺乃至十二尺ノ所ニ白燈一箇ヲ増掲スヘシ此三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各  
二點マテハ白色其ノヨリ正横後ノ四點マテハ右舷ハ綠色、左舷ハ紅色ノ射光ヲ  
及ホシ又増掲ノ白燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘキモノタル  
ヲ要ス

乙 總積量七噸以上ノ帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘキ白燈一  
箇ヲ掲クル外尙少クモ三十秒時間發火スヘキ紅光焰管ヲ備置キ他船ノ我船ニ近  
寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見  
定メテ之ヲ發スヘシ

本項乙ニ記載スル諸船地中海ニアリテハ紅光焰管ノ代リニ他ノ閃火ヲ用ウルヲ  
得

本項甲乙ニ記載スル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

丙

總積量七噸未滿ノ帆船ハ必スシモ本條第二項乙ニ記載スル白燈ヲ掲クルヲ要セ  
ス然レトモ之ヲ掲ケサル場合ニ於テハ白色亮明ノ光ヲ發スル燈籠一箇ヲ手近カ  
ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ  
防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ燈ヲ最モ見得易キ所ニ表示シ且本條第二項  
乙ニ規定シタル紅光焰管ヲ發シ或ハ其ノ焰管ノ代リニ他ノ閃火ヲ發スヘシ

三 繩釣漁業ニ従事スル船碇泊若ハ停留セサルトキハ刺網ヲ用井タル漁船ト同一ノ燈  
ヲ掲クヘシ

四 漁船ハ本條ニ規定シタル燈火ヲ表示スルノ外何時ニテモ閃火ヲ發スルヲ得但シ線  
網其ノ他桁網ノ類ヲ以テ漁業ニ従事スル船ノ閃火ハ船尾ニ於テ之ヲ發スヘシ然レ  
トモ漁具ヲ船尾ニ繫キタル場合ニ於テハ船首ニ於テ發スルヲ得

五 漁船碇泊スルトキハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ表示スヘシ  
六 漁船其ノ漁具ノ岩礁其ノ他障礙物ニ纏著シタル爲其ノ所ニ停留スルトキハ碇泊船  
ト同一ノ燈ヲ表示シ且碇泊船ノ霧中信號ヲ爲スヘシ

七 霧中降雪其ノ他暴雨中刺網、線網、桁網ノ類其ノ他繩釣ノ業ニ従事スル漁船ニシ  
テ總積量二十噸以上ナルトキハ漁船ナレハ漁笛又ハ漁角、帆船ナレハ霧中號角ヲ  
用井一分ヨリ多カラサル時間毎ニ一聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラスヘシ

八 刺網、線網又ハ繩釣漁業ニ従事スル帆船運航中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ

艦又ハ其ノ他ノ信號ヲ揚ケ近寄ル他船ニ其ノ漁船ナルコトヲ表示スヘシ

本條諸項ノ漁船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第十條 他船ニ追越スレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ船火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ像メ船尾ニ掲置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ光明ノ光ヲ發シ鍍盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛射光ノ及フヘキ様隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ

第十一條 長サ百五十尺未満ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ超エサル所ニ白燈一箇ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光明ノ光ヲ發シ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ク且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ  
本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルヘシ  
船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乘揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ掲クヘシ

第十二條 各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條 本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船舶ニ増掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條 汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒色形象一箇ヲ掲クヘシ

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ  
汽船ハ汽笛若ハ瀛角

帆船及他船ニ引カテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

瀛船ハ瀛力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ瀛笛若ハ瀛角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニ依リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ瀛船同様ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ  
霧中降雪其他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

- 一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ
- 二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス
- 三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ
- 四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ
- 五 船舶普通ノ碇泊場外又ハ航行中ノ船舶ニ障礙ヲ及ホス虞アル場所ニ碇泊シタルトキハ汽船ナレハ汽笛若ハ汽角ヲ用井二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發シ直ニ號鐘ヲ鳴ラスヘシ又帆船ナレハ霧中號角ヲ用井一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ二聲ヲ發シ直ニ號鐘ヲ鳴ラスヘシ
- 六 他船ヲ引キテ運航スル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナシト雖他ノ信號ヲ爲スヘカラス
- 七 航路ニ餘地アリテ他船ノ航過スルニ障礙ナキコトヲ他船ニ通知セントスル汽船ハ短長短ノ三聲ヲ連發スルヲ得但其ノ三聲ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

- 八 海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶近寄り來ル他船ノ霧中信號ヲ聞キタルトキハ三長聲ヲ連發シテ之ニ應スヘシ
  - 九 船舶航行中運轉自由ヲ得シテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサルトキニ際シ近寄り來ル他船ノ霧中信號ヲ聞キタルトキハ四短聲ヲ連發シテ之ニ應スヘシ
- 總積量二十噸未満ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲サルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

汽船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航 力

衝突ノ危険ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其方位儘ニ變更スルヲ認メサルトキハ危険アルモノト知ルヘシ

第十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ虞アルトキハ其ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航

路ヲ避クヘシ

- 一 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ
- 二 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ
- 三 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

- 四 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 二艘ノ漁船正シク真向又ハ幾ノト真向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鍼路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク真向又ハ幾ノト真向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限り適用スヘシ  
兩船各々其ノ鍼路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキハ適用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ幾ノト真向ニ行逢ヒタルトキ即チ畫間ニアリテハ我船ノ橋ト他船ノ橋ト一直線又ハ幾ノト一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ畫間他船ノ我鍼路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシ

テ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條 二艘ノ漁船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アリタルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄り衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鍼路及速力ヲ保ツヘシ

第二十二條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス

第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄りタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラス他船ノ航路ヲ避クヘシ

總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更テ來タスモ其ノ追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス

晝間他船ヲ追越サムトスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十五條 漁船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十六條 航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用弁テ漁業ニ従事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖猥ニ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及ヒ衝突ニ關シ百般ノ危険ニ注意スルハ勿論若危険切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危険ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號

第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ

航行中ノ漁船他船ニ近寄り航路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ航路ヲ通知スヘシ

短聲一發 我船航路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船航路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメザルモノトス

特例

第三十條 本法ハ地方長官ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ通航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號

一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス

二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表示ス

三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲クル遠隔信號ヲ表示ス

四 夜間信號ノ部ニ規定シタル榴彈或ハ火箭ヲ打揚ク

五 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス

- 二 船上ノ發焰(ター)ル桶油樽等ヲ燃燒スルノ類)
- 三 空中ニ高響及ヒ星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、度々打揚ク
- 四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附 則

- 第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス
- 第三十三條 本法ハ明治廿六年一月一日ヨリ施行ス
- 第三十四條 明治十三年(七月)第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年(五月)第三十三號布告同規則追加同十八年(八月)第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

西洋形船海員雇入雇止規則

明治十二年二月 布告第九號

- 西洋形船海員雇入雇止規則別冊ノ通相定來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事 (三十)
- 年第十號布告ヲ以テ「西洋形商船」
- 「西洋形船」ト改ム以下皆同シ)
- (別冊)
- 西洋形船海員雇入雇止規則
- 第一條 西洋形船(蒸氣船ハ拾噸以上風帆船ハ貳拾噸以上)ニ於テ海員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲ス時ハ總テ此規則ノ條款ニ準據スヘシ

第二條 雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇入證書用紙ヲ以テ其定約書ヲ作り雇者被雇者記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受クヘシ (十四年第四十號布告ヲ以テ「內務省」ヲ「農商務省」ト改ム以下皆同シ)

但定約書ハ正副二通ニ作り其本書、本船ニ保チ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ

第三條 内海回漕船ニ於テハ雇入期限ヲ六箇月以内ト定ム然レトモ外國航船ニ於テハ六箇月以外ヲ約スルヲ得ヘシ

第四條 雇止ノ時雇者ハ其ノ地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇止證書用紙ヲ以テ雇止證書ヲ作り記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受ケ之ヲ其被雇者ニ付與スヘシ

雇入又ハ雇止ノトキ技術免狀ヲ所持スルモノハ浦役人ノ検査ニ供シ且其検査證書ヲ申受ヘシ (十六年第四十五號布告ヲ以テ本項以下三項ヲ追加ス)

雇入又ハ雇止ノ公認ヲ受クルトキハ手數料トシテ被雇者給金一月分ノ百分一ニ當ル金額ヲ雇者被雇者ヨリ各其半額ツ、浦役場ニ納ムヘシ

雇入定約書及ヒ雇止證書ヲ亡失毀損シ其寫ヲ乞フ者ハ二名以上ノ保證人ト連署シテ當初公認ヲ受ケタル浦役場ニ申出ヘシ浦役人ハ簿冊ニヨリ之ヲ製シ認印ヲ捺シテ交付スヘシ

第五條 雇止ハ雇入地ニ限リ行フヘシ故ニ雇入地外ニ於テ滿期ニ至ルモ雇入地ニ歸著ス

ル迄ハ雇入期限内ト見做スコトヲ得ヘシ

但雇者被雇者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限リニアラス

第六條 左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ハラズ雇者ヨリ雇止ヲナスヲ得ヘシ

一 疾病又ハ體質痿弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル者

一 本船難破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル時

但以上二項ノ場合ニ於テハ雇者ノ費用ヲ以テ雇入地へ歸還セシムヘシ

一 第十條ニ掲クル違約一箇月内三回以上ニ至ル者

一 第十一條ヲ犯ス者

第七條 又左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ハラズ被雇者ヨリ其定約ヲ解クヲ得ヘシ

一 苛虐ヲ取扱ヲ受ケシ時

一 飲食物又ハ給金ノ全額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時

但右ノ場合ニ於テハ雇入地へ歸著ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘシ

第八條 外國ニ於テ雇入若クハ雇止ヲ爲ス時ハ其國駐留ノ我國領事館ニ於テ農商務省ヨ

リ發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ雇止證書ヲ作り記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受クヘシ

但定約書ハ正副二通ニ作り其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ

第九條 新クニ海員トナル者及ヒ此規則施行以前雇止トナリシ者ヲ除クノ外被雇者ハ必

ズ最後ノ雇止證書ヲ所持スヘシ又雇者ハ最後ノ雇止證書ヲ所持セサル者ヲ雇入スヘカ

ラス

第十條 船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スル者

(第十一條ノ脱船者ニアラス)本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀槍

或ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ毎回其給金三日分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主之

ヲ收メ且其銃器刀槍或ハ酒類ヲ取上クルヲ得ヘシ

第十一條 船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ劫ス者脱船スル者(雇入期限内ニ逃亡スル者

ヲ云フ)ハ其事情ニ因リ百日内ノ懲役ニ處ス若シ船體船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用

スル者ハ其實價ヲ償ハシムルノ外本條ニ依テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條 海員ヲ遣使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ

百圓以内ノ罰金ヲ科シ其給與セサル全額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條 此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯ス者ハ其事情ニ因

リ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

### ● 登録税法

明治二十九年三月二十七日  
法律第二十七號

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第二條 地所、建物ノ登記ヲ請フトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 買受人 賣買代價千分ノ二十

二 家督相續人(戶主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ五

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ十トス

三 遺產相續人 時價相當價格千分ノ十

四 贈與又ハ遺贈ヲ受ル者 時價相當價格千分ノ二十

五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五

六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五

七 強制管理ノ申立人又ハ假差押、假處分ノ申請人 價格千分ノ三

八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢

九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲メ登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二

六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル

第三條 船舶ノ登記ヲ請フトキ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 買受人 賣買代價千分ノ十

二 家督相續人(戶主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ二

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ五トス

三 遺產相續人 時價相當價格千分ノ五

四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ十

五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五

六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五

七 假差押、假處分ノ申請人 價格千分ノ三

八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢

九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲メ登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ一

六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル

第四條 船舶ノ登録ヲ請フモノハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録 余五十錢  
每十噸金五十錢

二 轉 籍 金十錢  
每十噸金十錢

三 除 籍 金五錢  
每十噸金五錢

十五噸未滿ノ船舶  
十五噸以上ノ船舶  
十五噸以上ノ船舶



四 登簿事項ノ變更

每一件金拾錢

一號、二號及ヒ三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 地價千分ノ二十
  - 二 地價ノ設定(復舊共) 地價千分ノ十
  - 三 地價ノ修正 地價千分ノ十
  - 四 開墾 地價千分ノ十
  - 五 繳下年期付與 地價千分ノ十
  - 六 地價据置年期付與 地價千分ノ十
  - 七 繳下年期ノ繼年期付與 地價千分ノ十
  - 八 新開免租年期ノ繼年期付與 地價千分ノ十
  - 九 低價年期ノ付與 地價千分ノ十
  - 十 段別ノ増減 地價千分ノ五
  - 十一 分裂又ハ合併 地價千分ノ五
- 本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條 左ノ事項ニ付キ登記ヲ受クル商事會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 合名會社、合資會社設立 資本金額千分ノ二
- 二 合名會社、合資會社資本増加 増加資本金額千分ノ二
- 三 合名會社、合資會社支店設置 會社資本金額萬分ノ二
- 四 株式會社設立 設立初度ノ拂込資本金額千分ノ三
- 五 株式會社設立後ノ資本金拂込 每拂込金額千分ノ三
- 六 株式會社支店設置 現在拂込資本金額萬分ノ三
- 七 登記事項ノ變更(資本ノ増加及拂込登記ヲ除ク) 每一件金三圓
- 八 解散 每一件金壹圓

第七條 左ノ事項ニ付キ辨護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 金二十圓
- 二 登録換 金十圓
- 三 取消ノ請求 金壹圓

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ

- 登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録 醫師 金二十圓 藥劑師 金十二圓

獸醫

金十二圓

蹄鐵工

金五圓

假開業醫師

金五圓

假免許獸醫

金參圓

二 登錄事項ノ變更

每一件金五拾錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 新規登錄

甲種船長

金十五圓

甲種一等運轉手

金十圓

甲種二等運轉手

金六圓

甲種一等機關手

金十五圓

甲種二等機關手

金十圓

乙種船長

金十圓

乙種一等運轉手

金六圓

乙種二等運轉手

金四圓

乙種一等機關手

金十圓

乙種二等機關手

金六圓

小形船機關手

金四圓

水先人

金二十圓

二 登錄事項ノ變更

每一件金五拾錢

第十條 版權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 普通ノ文書、圖書

一種毎ニ金五圓

二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書、圖書

一冊毎ニ金二圓五十錢

三 雜誌ノ類

一冊毎ニ金五十錢

四 興行權ヲ併有スル脚本

一種毎ニ金五十圓

五 興行權ヲ併有スル樂譜

一種毎ニ金二十圓

六 寫真

一版毎ニ金五圓

第十一條 特許ニ關シ登錄ヲ受クルモノハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 新規登錄

五年ノ特許

金二十圓

十年ノ特許

金三十圓

十五年ノ特許

金四十圓

二 賣與、讓與及ハ共有

每一件金十圓

三 書入契約

每一件金五圓

第十二條 意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 新規登錄

三年ノ專用

物品一類毎ニ金參圓

五年ノ專用

物品一類毎ニ金五圓

七年ノ專用

物品一類毎ニ金七圓

十年ノ專用

物品一類毎ニ金十圓

二 賣與、讓與及ハ共有

物品一類毎ニ金二圓

三 書入契約

物品一類毎ニ金一圓

第十三條 商標ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 新規并續用登録 商品一類毎ニ金二十圓

二 賣與、讓與又ハ共有 商品一類毎ニ金十圓

第十四條 鑛業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 試掘 金五十圓

二 採掘 金百圓

三 試掘増區及増減區ニ係ル訂正 金二十五圓

四 採掘増區及増減區ニ係ル訂正 金五十圓

五 買受、讓受 金五十圓

六 採掘權書入又ハ試掘延期 金十五圓

七 減區ニ係ル訂正 金五圓

八 鑛區ノ合併又ハ分割 金十圓

九 廢業 金五圓

第十五條 左ノ事項ニ付キ戶籍ニ登録スルトキハ届出人ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 左ニ列記スルモノ 金壹圓

身分變換 復姓 改名 家督相續 相續人入籍 廢戶主 廢嫡 分家 廢嫡者復

立 絕家再興 離婚送籍 相續人送籍 私生子引受

二 左ニ列記スルモノ 金七十錢

養子女入籍 結婚入籍 相續人離縁送籍 養子女離縁送籍 轉籍 私生子引渡

戶内離縁 庶子私生子ヲ嫡出トナスモノ

三 左ニ列記スルモノ 金五十錢

戶籍訂正 戶内結婚 縁女入籍 結婚送籍 縁女送籍 養子女送籍

四 左ニ列記スルモノ 金三十錢

分家者復歸入籍 養子女離縁復籍 相續人離縁復籍 離婚復籍 縁女離縁復籍

五 左ニ列記スルモノ 金二十錢

出生 失踪者復歸 失踪者所在分明

六 左ニ列記スルモノ 金拾錢

携帶者入籍 親族入籍 附籍者入籍 携帶者送籍 親族送籍 附籍者送籍

第十六條 國債證券ノ記名登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規記名 額面金額千分ノ二

二 左ニ列記スルモノ 額面金額千分ノ一

記名變更 枚數變更 記名除却

第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ徵收

スルコトヲ得

第十八條 登録税ハ總テ金壹錢以上トス壹錢未満ノ端數ハ壹錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條 無資力ニシテ左ニ掲クル者及ヒ窮民ニシテ公ノ救助ヲ受ル者ハ戶籍ノ登録税ヲ免除ス

一 一定ノ職業ナク臨時日雇等ニ依リ生活スル者

二 十三年未満六十年以上ニシテ一定ノ職業ナキ者

三 婦女子ニシテ一定ノ職業ナキカ又ハ他人ニ雇使セラル、者

附則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治三十年三月十九日印刷  
明治三十年三月廿五日發行

發行兼編輯者

小坂作平

石川縣金澤市東馬場町  
百七十三番地ノ二

印刷者

宇野孝太郎

石川縣金澤市尾張町  
八十一番地

印刷所

同所  
活文堂

金澤市尾張町

發行所

雲根堂

